

【伊豆の国市】

校務 DX 計画

■GIGA 第 1 期の総括と課題の解決策

- ・クラウド環境を活用した校務改善の進捗状況には学校間で大きな差があることが明らかになった。
- ・特に下記項目について課題が残るため、課題と解決策を下記の通り計画する。

KPI	目標値（目標年度）
課題と解決策	
教員と保護者間の連絡のデジタル化	
児童生徒の連絡等について、アプリ等を用い、PC・モバイル端末等から受付、学校内で集計している学校の率	100%（R8）
・現在、Google フォームや電話で生徒の欠席連絡を受けているが、専用アプリを導入し、クラウドサービスから欠席連絡を受け、学内の管理情報に即時反映される環境を整備する。	
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	
児童生徒への調査・アンケート等にクラウドサービスを用いている学校の率	100%（R8）
・現在、教育委員会からの依頼や学校独自のアンケート調査を紙で運用している学校もあるため、実施および集計報告業務に多大な稼働がかかっている。児童生徒に配布している Google アカウントを活用し Google フォームを用いてアンケート実施することで、稼働の削減をめざす。	
学校内の連絡のデジタル化	
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の率	100%（R8）
・現在、職員会議等の資料は紙で配布している事が多く、教職員に Google アカウントを配布しているが利活用が進んでいる学校は少数に留まる。利活用が進んでいる学校における事例をまとめ自治体内全校へ展開するとともに、Classroom 等の活用による学校内連絡のデジタル化を徹底し、職員会議等の資料のペーパーレス化を促進する。	

■校務 DX の推進に向けて

- ・「教育 DX に係る当面の KPI」に定められる各項目について、課題と解決策を下記の通り計画する。

KPI	目標値（目標年度）
課題と解決策	
FAX でのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	100%（R7）
・現在、学校から教育委員会への提出物において FAX での送付が必要となっている場面がある。教育委員会から学校への資料送付および、学校から教育委員会への資料提出を電子データで行うことができるよう、グループウェアにおけるファイル送付機能を推進する。	
・現在、紙の出勤簿など押印が必要となっている書類を調査し、押印の廃止を徹底する。	
次世代の校務支援システムの導入に向けた検討を行う自治体の率	100%（R8）
・校務支援システムの県共同利用を見据え、県内において公簿等の様式統一が図られた際に活用できる校務環境を整備する。	
・次世代の校務 DX の推進における学校と教育委員会、学校内での教員や事務職員、ICT 支援員、支援員等の役割分担を整理する。	